

教育同窓会 会報

- ・教育学部
- ・人間社会学域
学校教育学類
- ・大学院教育学研究科
- ・養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第3号 2013.3.22



金沢大学人間社会学域学校教育学類のミッションと 教育同窓会について

金沢大学人間社会学域学校教育学類長

川 幡 佳 一（教育同窓会顧問）

2012年4月より学類長を務めております。このたびは、本学類の現状を同窓生の皆様にご報告する機会を与えていただきましてありがとうございます。

1 学類とは？

まずは組織変遷の概略から。金沢大学は、2008年に学部制から学域学類制へと移行しました。3学域の下に16学類が配されています。学校教育学類は、人間社会学域に属する6学類の一つです。管理職の系統としては、学長＞学域長＞学類長となり、「学部自治」は名実ともに消滅しました。ちなみに「大学の自治」は、2004年の法人化によって止めを刺されました。学生教育に関わる学域学類と並行して、教員組織としての「研究域・系」も発足しましたが、話が複雑になりますので割愛させていただきます。

学類の内部は11専修（教育基礎、特別支援、国語、数学、理科、社会、英語、音楽、美術、保健体育、家政）に分かれて、それぞれの教育を行っています。各専修は従来の教室がいくつか合併してできたものが多く、例えば理科教育専修は理科教育・物理・化学・生物・地学の5教室が合併したものです。したがって、学類卒業生が出るようになると、同窓会組織も旧教室と現専修の調整をしていただく必要があります。

2 教員養成の現状（P2 付表参照）

本学類の入学定員は100名で、教員養成に特化しています。学生全員が、小学校一種に加えて中学校一種（技術以外の9教科）または特別支援一種の教員免許を取得します。また、ほと

んどの方が中学校免許科目に関連した高校免許も取得します。このため、本学類の卒業者は、小中高・特支の4校種の教員に採用されています。学生の4割強が石川県出身、4割弱が富山福井両県出身であり、教員就職先も石川県を中心とする北陸三県が大半を占めています。

旧教育学部教員養成課程入学定員は30年前には255名でしたが、教員採用数と共に削減されて2000年には100名となりました。その時点では定員95名の新課程（ゼロ免）が併設されましたが、2008年の改組により他学類（地域創造等）として独立しました。教員養成課程定員の一部を新課程に振り分け、さらには純減させる国策は、1980年代の行政改革の一端でした。

もとより教員養成課程は教員志望者を募集し養成するものですが、新課程の併設により学生の自覚がブレる傾向がありました。教員養成に特化した新学類においては、学生募集段階は言うに及ばず、在学中も教員志望を維持すべく自学自習システム（教師になるためのノート）を実施しています。これにより、教員採用試験受験率は学類1期生の73%から2期生の83%へと増加しました。教員採用試験合格率は、学部最終学年で過去最高の66%を記録しましたが、学類2期生はこれをさらに上回る見込みです。受験率とこれに続く合格率のさらなる向上が当面の課題です。

3 ミッションの再定義

現在文部科学省による「国立大学のミッションの再定義」が進行中です。財務省からの歳費節減要求による、大学の事業仕分けのようなものです。

以下に文部科学省の文書の一部を引用します。

『国立大学の機能強化：「大学改革実行プラン」(平成24年6月、文部科学省)及び「日本再生戦略」(平成24年7月31日閣議決定)は、「ミッションの再定義」、「国立大学改革基本方針」(本年度中)及び「国立大学改革プラン」(平成25年度まで)といった国立大学改革のロードマップを提示している。(中略)

ミッションの再定義を始点とする国立大学の機能強化のプロセス：文部科学省においては、各大学からデータ等の資料を得て、意見交換を行いながら、各大学の専門分野ごとに、当該専門分野にかかわる教育研究組織の設置目的、全国的又は政策的な観点からの強みや大学として全学的な観点から重視する特色、国立大学として担うべき社会的な役割を把握する。』

これを受けて昨年10月以来「データ等の資料」の作成作業を継続しているところですが、12月25日には提出資料を踏まえた「意見交換」が本省において行われました。石川県における教員養成機関の将来にわたる存在意義を訴えました

が、文部科学省が求めたのは直近の教員の大量退職に伴う大量採用時代への対応でした。上述のように、国が教員養成規模を縮小し続けたツケが今になって回って来たものです。いまさら募集定員を増やすわけにもいきませんので、量より質で勝負するしかありません。「データ等の資料」としては、いかに優秀な教員を輩出して来たかを証拠に基づいて示さなければなりません。つきましては、教育同窓会会員の方々にも証言をお願いすることになるかもしれません。

同時に石川県における教員供給のシェアも問題とされました。幸い本学類は比較第一党でしたが、特に小学校採用におけるライバル校を研究することも求められました。私自ら複数の大学に赴いて聞き取り調査を実施したところ、もっとも印象的だったのは同窓会との緊密な連携でした。教員採用試験についての先輩現任教員からの様々な指導が行われ、これによって合格した学生がその体験を後輩学生に伝えることにより、縦の繋がりが再生産されていくというものです。こちらのほうも、実現可能な対策から始めようと企画していますので、ご協力のほどお願いいたします。

【付 表】 金沢大学の教員養成課程の変遷

年	大学の動き	募集定員	教採合格率 (%)	教育行政の動き
1984		255		臨時教育審議会設置(中曽根内閣)
1986				「国立の教員養成大学・学部の今後の整備の方向について」報告
1989	新課程設置	225		
1991				大学設置基準の大綱化
1992	角間移転			
1996	教養部廃止	155		
2000		100		教育改革国民会議設置(小淵内閣)
2001				国立の教員養成系大学学部の在り方に関する懇談会報告
2002			41.2	
2003			47.0	
2004	法人化		49.1	
2005			54.9	
2006			55.2	教育再生会議設置(安倍1次内閣)、教育基本法改正
2007			62.5	
2008	学校教育学類		42.6	
2009			49.5	
2010			59.0	
2011			66.3	
2012			57.5	国立大学のミッションの再定義
2013			67(速報値)	

金沢大学教育学部 30の会 開催

平成24年9月21日(金)～22日(土) 金沢大学角間・KKRホテル金沢

「30の会」は、昭和30年3月に教育学部乙類とろう教育課程を修了した方々の同窓会です。約90名の会員がいましたが、歳を重ねるにつれて参加者が減少してきたことから、今回をもって最後の同窓会ということになりました。22名が参加して角間キャンパスの見学と、物故者の追善法要を行いました。

角間キャンパスの見学は、金沢大学学友支援室のお取り計らいで大学のマイクロバスを使い、西谷学友支援室長に案内をしていただきました。学校教育学類の会議室で大学の概要の説明を受



角間キャンパスを歩く参加者

けた後、人間社会学域のキャンパスや中央図書館と、それに併設されている大学資料館を見学しました。理工学域キャンパスは車窓からの見学となりました。

夏季休業中とあって学生の姿はありませんでしたが、緑多い角間の里山に点在する近代的な校舎の様子と、かつての城内キャンパスとを重ね合わせて感慨深い様子でした。

本町の仁随寺で物故者の追善法要を営んだ後、会場を宿舎となるKKRホテル金沢に移して最後の懇親会を楽しんだとのことでした。(文責：教育同窓会事務局 澤野)



大学資料館で説明を受ける参加者

金沢大学教育学部 35会 開催

平成24年4月25日(水)～26日(木)に、七尾市和倉温泉「宿守屋 寿苑」で行われ、石川県内各地から23名が集いました。

35会(さんごかい)と言うのは、「昭和35年度卒業の金沢大学教育学部第1部甲類の同期会」です。1部とは小学校、甲類とは4年課程を指していて、教職に就いた者がほとんどです。我々が卒業して、今年で51年も経ちました。

当時のキャンパスは旧金沢城内にあって、お城の大学として皆さんから羨ましがられたものでした。その後、角間に移り、学部学科の名称も何度か変更されているようです。

懇親会は記念写真撮影の後、物故者に黙祷を捧げてから乾杯で始まりました。久しぶりに再会する者もあり、その後の波瀾万丈の人生ドラマ、順風満帆だった人、平々凡々の人生だった人などの生き様の話に聞き入りました。ほとんどの人は今は地域の世話役も終え、現在は健康保持のため、野菜作りや水泳、ダンス、国内外の旅行、低山歩き、ボランティア活動、コーラス、テニス、陶芸などを楽しんでいるようです。

35会は平成元年に第1回を開いてから、今回の和倉温泉で15回目です。石川県(金沢・加賀・能登)、福井県、富山県と会場を変えて続けてきました。第5回の金沢深谷温泉の時には、角間キャンパスの見学をしました。広大な角間キャンパスに初めて行った者もあり、自分たち

の学生時代と違った環境に感慨深いものがありました。第12回高岡市雨晴温泉の時には、万葉歴史館や瑞龍寺の見学などで、奈良時代や江戸時代の歴史に触れることができました。第13回の金沢白鳥路ホテルの時には、すっかり変わった金沢城跡の菱櫓や五十間長屋、河北門などを、若かりし頃の思い出に耽りながら懐かしく巡りました。

今回は次期開催を金沢と確認して解散しました。今回、県外から来た人は少なかったのですが、今まで外浦観光はできなかったということで、福浦や能登金剛などを案内しました。



金大教育学部35会 於和倉温泉 宿守屋寿苑 平成24年4月25日

和倉温泉での懇親会

教育同窓会役員

会長	岩田 靖夫(S43)	
副会長	金浦 修郎(S43)	飯田 一郎(S38)
	池島 康衛(S34)	
会計	東 実(S50)	
監事	正見 巖(S32)	野村 祐治(S34)
支部長	阿戸壯一郎(小松)	池野 忠(金沢)
	森田 敦志(金沢市)	池島 康衛(七尾)
	高山 文雄(輪島)	
事務局長	澤野 等(S45)	
幹事	大杉 繁(S50)	山下美奈子(S52)
	坂根 功一(S55)	佐々木清嗣(S57)
	山本 桂一(S58)	寺井 義春(S61)
	辻谷 友紀(H15修 大学職員)	
顧問	川幡 佳一(学校教育学類長)	
	松下 良平(大学院教育学研究科長)	
	山本 博男(学校教育学類教授 S47)	
	深美 和夫(元会長 S28)	
	窪田 長世(前会長 S38)	

金沢大学教育同窓会 会計決算報告 (H23.8~24.3)

【収入】

項目	金額(円)	備考
1 繰越金	810,429	前回の会計報告時(23年7月)の残高
2 会費	1,611,200	23年度入学生81名分
3 利子	124	
合計	2,421,753	

【支出】

項目	金額(円)	備考
1 会議費	12,600	幹事会、代議員会、交通費補助 など
2 通信費	10,825	会議連絡・返信用はがき など
3 事務用品費	1,848	プリンタインク、印刷用紙 など
4 分担金	5,000	学友会設立記念パーティ分担金
5 印刷発送費	1,413,670	会報No.2・封筒印刷、会報発送費
6 慶祝費	190,000	23年度卒業祝い図書カード(190人)
7 その他	0	
合計	1,633,943	

収入総額 2,421,753円 - 支出総額 1,633,943円 = 787,810円

【差引残高】 787,810円は24年度事業に繰り越し

★臨時同窓会費納入のお礼★

昨年3月の会報送付の折りに臨時会費の納入をお願いしたところ、約330名の方々から合計84万円あまりの会費を納入していただきました。ありがとうございました。会計報告は来年3月にさせていただきます。

☆☆☆学友支援室からのお知らせ☆☆☆

第7回ホームカミングデイは、平成25(2013)年11月2日(土)に開催いたします。当日のプログラムについては、現在、大学側の案を基に各基幹同窓会で検討していただいております。

大学から案内状が送られる別表に記載の卒業期の皆さまは、ぜひ予定に入れていただき、併せて、同期会や教室等の同窓会を当日前後に開催する準備を進めてくださるようお願いいたします。

第7回ホームカミングデイ案内状発送卒業年次一覧

- 年度末76歳以上
(第8回 昭和35(1960)年以前の卒業・修了者)
- 卒後50年経過(第11回 昭和38(1963)年卒者)
- 卒後45年経過(第16回 昭和43(1968)年卒者)
- 卒後40年経過(第21回 昭和48(1973)年卒者)
- 卒後30年経過(第31回 昭和58(1983)年卒者)
- 卒後20年経過(第41回 平成5(1993)年卒者)
- 卒後10年経過(第51回 平成15(2003)年卒者)

○金沢大学学友会や同窓会の情報は、学友支援室のホームページを検索願います。

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html

○学友会に未登録の教室等の同窓会は、ぜひ登録願います。

お願いとご案内

★同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催報告を、下記の事務局までお寄せ下さい。

★同窓会を開催するにあたって、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学事務局 学友支援室内
TEL 076-264-5081
gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp
事務局長:澤野 等(Tel.076-262-5804)

編集後記

昨年3月に最初の学校教育学類の卒業生が巣立ちました。今後の活躍を祈りたいと思います。

11月のホームカミングデイで、川幡学類長様から学校教育学類の状況などについて、分かりやすく説明いただくプログラムがありましたが、出席者が少なく、残念に思いました。そこで、その内容を会報に載せ、会員の皆様に新しい教員養成課程について知っていただくことが大切ではないかと考えました。感想などありましたらお寄せください。(事務局長 澤野 記)